

1月22日（木）湖南省立甲西中学校夜間学級を訪問しました！

対談テーマ

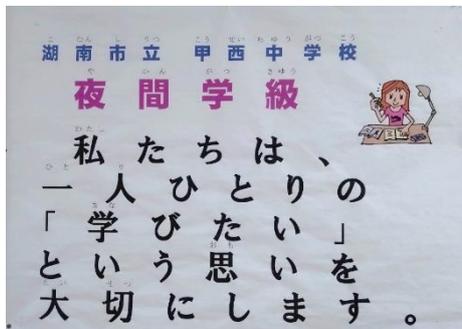
夜間学級における多様な学びの確保

第5回の対談では湖南省立甲西中学校夜間学級を訪問しました。今回は村井教育長、法山湖南省教育長にもご参加いただきました。また、対談後には実際に生徒が学習している様子も参観させていただきました。

訪問した教育委員

村井 泰彦 教育長 塚本 晃弘 委員
野村 早苗 委員

学校からの説明・校内見学



夜間学級では、校内の掲示にもあるように一人ひとりの「学びたい」という思いを大切にされています。生徒は個人の理由で学ばなかったのではなく、さまざまな理由で学ぶ機会が得られなかったのだという背景をきちんと理解する必要があると教職員は考えておられます。

参観させていただいた授業ではこの言葉がまさに実現されている場面がたくさん見られました。どの生徒も教職員の話真剣なまなざしで聞き、分からないことや難しいことに対しても、周りの支援を受けながら、一生懸命に取り組んでおられました。

意見交換より

- 委員：多様な背景を抱えている生徒が前向きにのびのびと学ぼうとする環境をつくっていただけることがよく分かりました。昼間部との連携をより密にすることで、昼間部の先生にはどのような良い影響がありましたか。
- 学校：昼間部の教職員が夜間学級の生徒と交流したことを昼間部の生徒に伝える、そこからお互いの交流が促進されるということがあります。例えば、先日行われた「人権の集い」では夜間学級をテーマに、日々の生徒たちのエピソードを含めた劇を発表するというようなことがありました。
- 委員：入学時の学年は、それぞれの生徒にあっていましたでしょうか。また、昼間働いている生徒で登校が難しくなった生徒はいらっしゃいますか。
- 学校：例えばその生徒が2年生だから、必ずしも2年生の学習内容のみ学ぶというわけではありません。生徒一人ひとりの実態に合わせて授業を行い、学びの支援をしています。教科書の内容を学びながら生徒の状況に合わせて学習内容を精選しながら学習を進めています。登校状況については半数がほぼ皆勤です。しかし、仕事の都合など背景はそれぞれ異なります。その生徒の実態にあわせて、サポートしていきたいと思っています。夜間学級に入学したことで前向きになってきている生徒もいます。今後も生徒一人ひとりに寄り添っていきたくと考えます。



委員：学校の話聞いて、まさに個別最適な学びの実現の場であると実感しました。この先生方の人数で今以上に生徒が増えた場合、同じような支援を継続できるのかは課題ではないでしょうか。学校が現在抱えている課題を教えてください。

学校：生徒と教職員の関係、授業を通じた関係づくりの大切さを感じることがあります。我々中学校の教職員はこれまで中学生と向き合ってきましたが、夜間学級の生徒は義務教育年齢ではありません。日々の授業や学校生活を通して生徒とのよりよい関係性を築いていきたいと感じています。また、甲西中学校のような昼間部との交流は他地域にはあまりないと聞いています。ここでの勤務を生きがいに感じている教職員もいる一方で長期休暇などを挟むと、教職員自身の生活リズムが乱れるという負担はあります。一年たって教職員の生活リズムが確立してきた部分もありますが、勤務が教職員の負担になりすぎないよう配慮が必要だと感じています。

委員：母語がそれぞれ違う生徒はお互いのコミュニケーションをどのようにとっているのでしょうか。

学校：お互いやさしい日本語で交流している姿が見られます。どの生徒も「学びたい」という共通の目標のもと、コミュニケーションをとっていると感じます。

委員：背景が様々な生徒を受け入れるにあたって、夜間学級が考える教職員の資質能力として大切なものは何でしょうか。

学校：学びたいという気持ちが非常に高い生徒ばかりなので、授業力も大切となります。しかし、それ以上に生徒に寄り添う力が教職員に必要なと感じます。専門性だけでなく協調性が非常に大切だと感じます。

委員：県教育委員会による支援について引き続き考えていかなければならないと感じました。